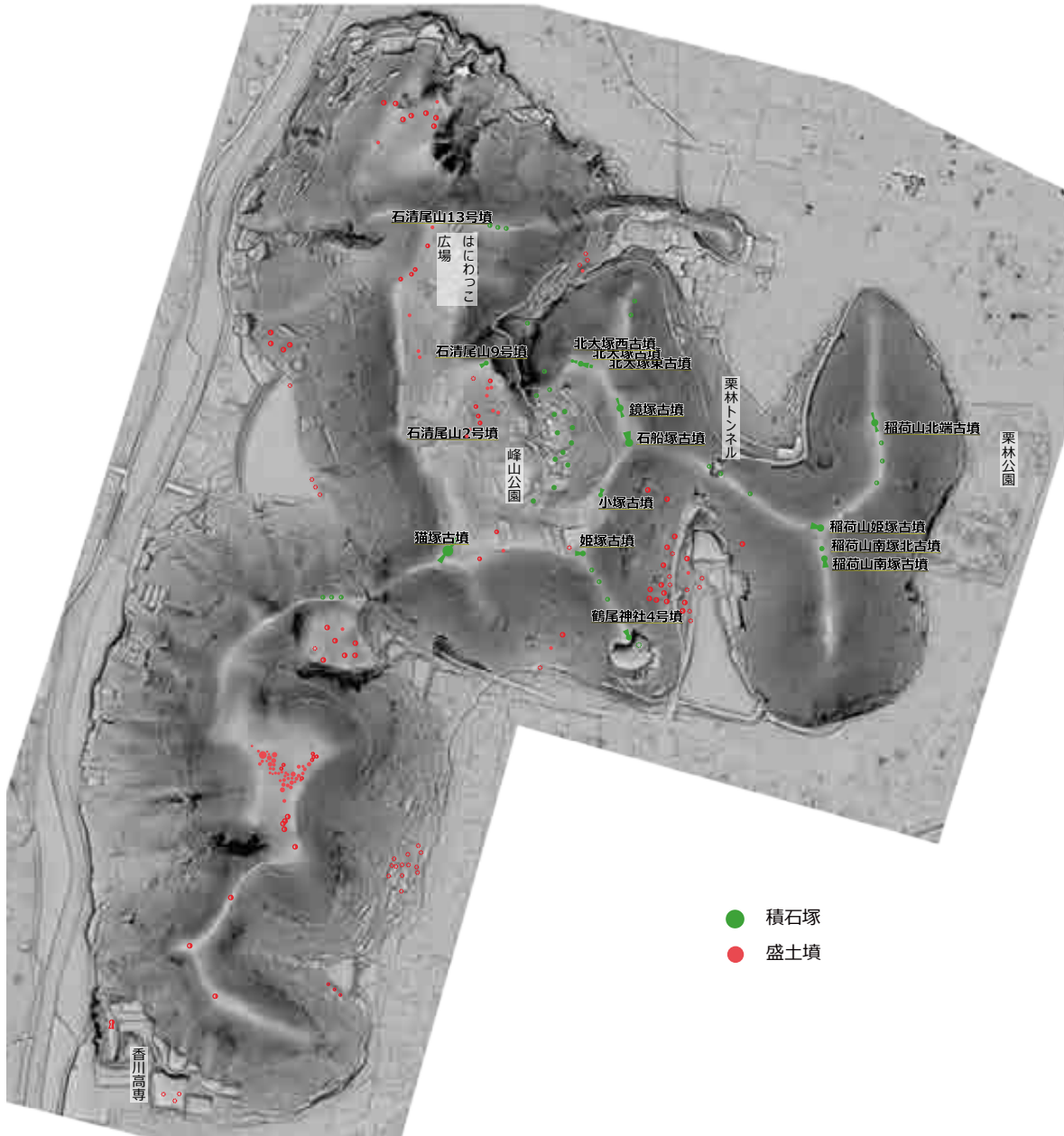




峰山地区の全景（南から）



稲荷山地区の全景（南から）



赤色立体地図



- 1 稲荷山北端古墳
- 2 鶴尾神社4号墳
- 3 石清尾山9号墳



- 4 稲荷山姫塚古墳
- 5 稲荷山南塚古墳
- 6 鏡塚古墳
- 7 猫塚古墳



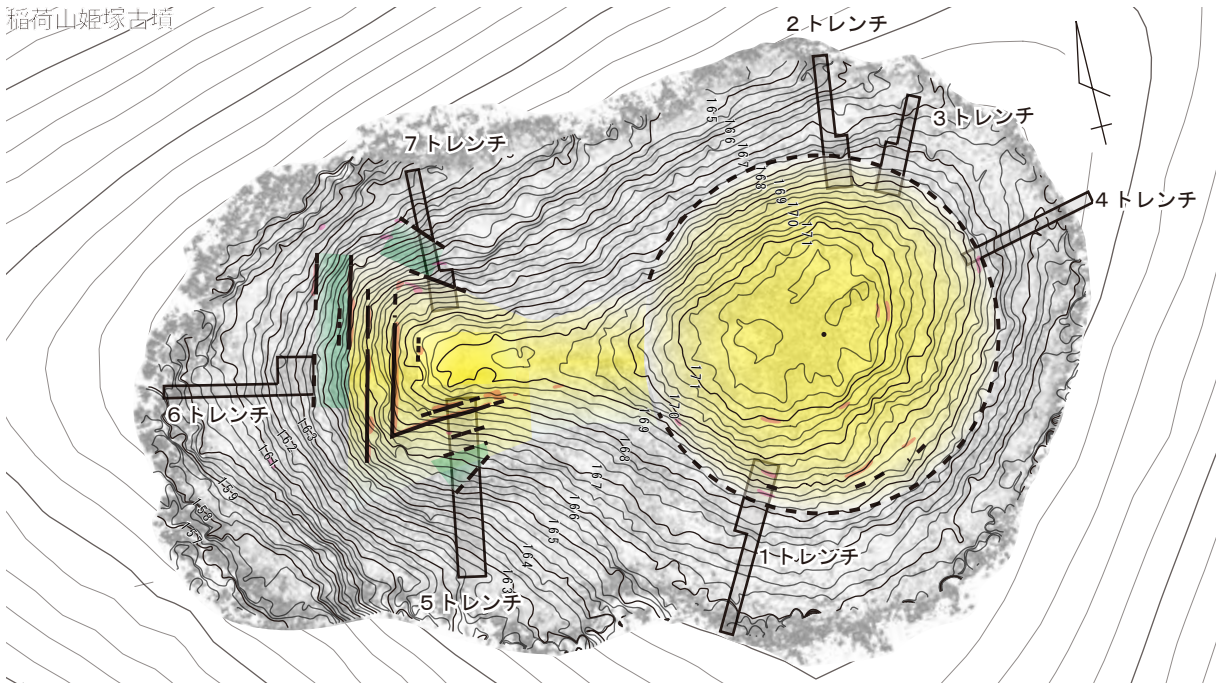
- 8 北大塚古墳
- 9 姫塚古墳



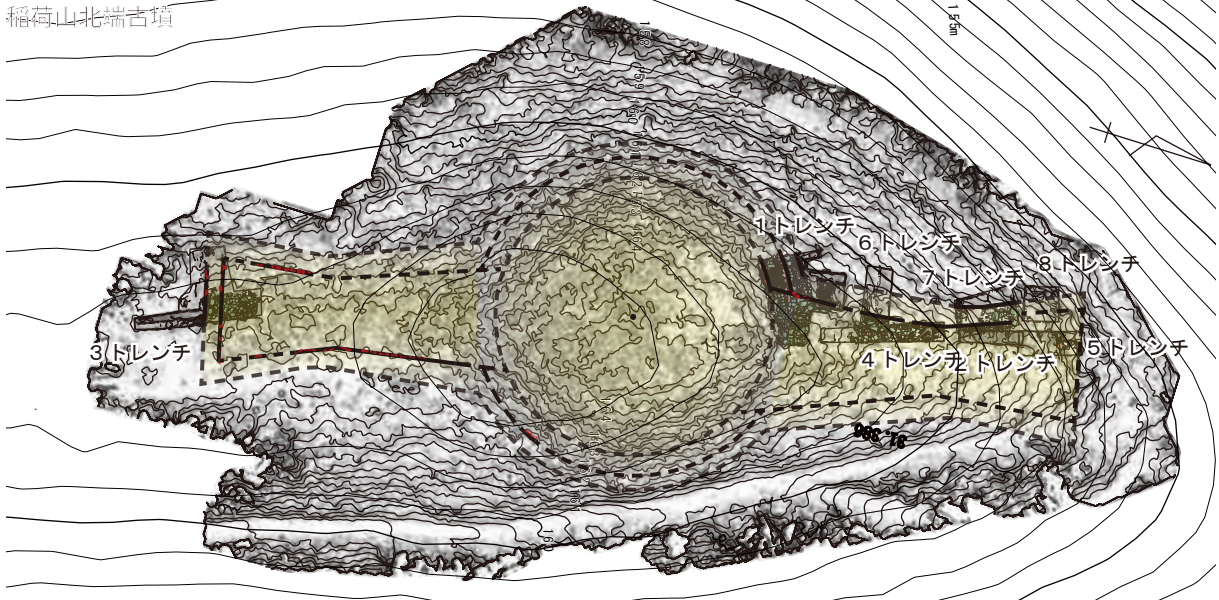
- 10 石船塚古墳

石清尾山古墳群時期別古墳分布図

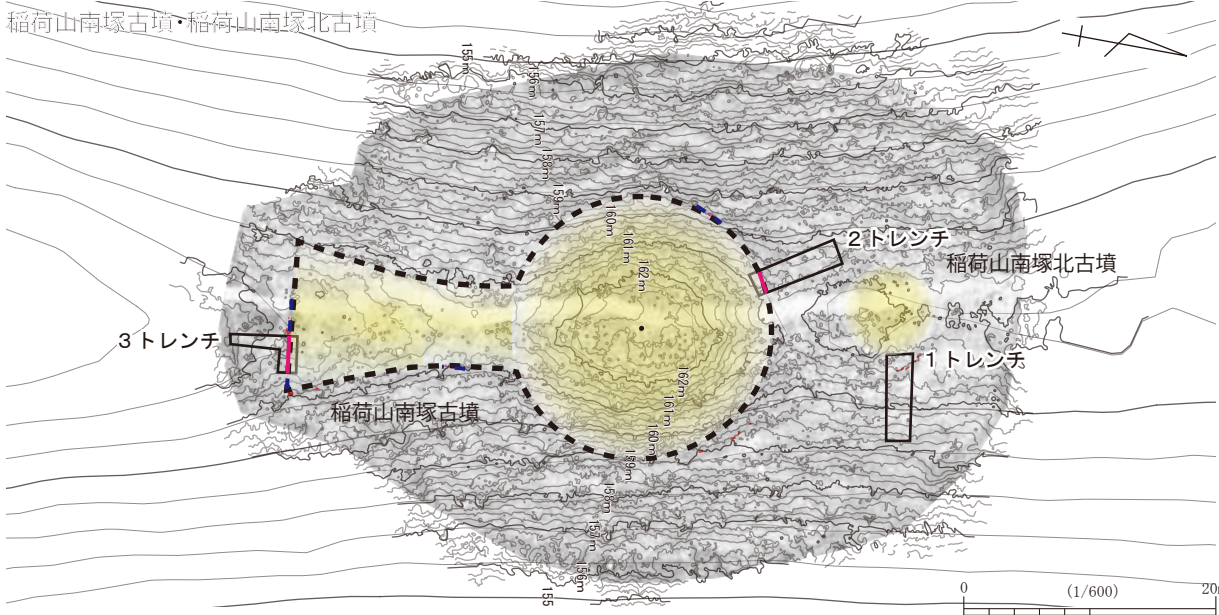
稲荷山姫塚古墳



稲荷山北端古墳



稲荷山南塚古墳・稲荷山南塚北古墳



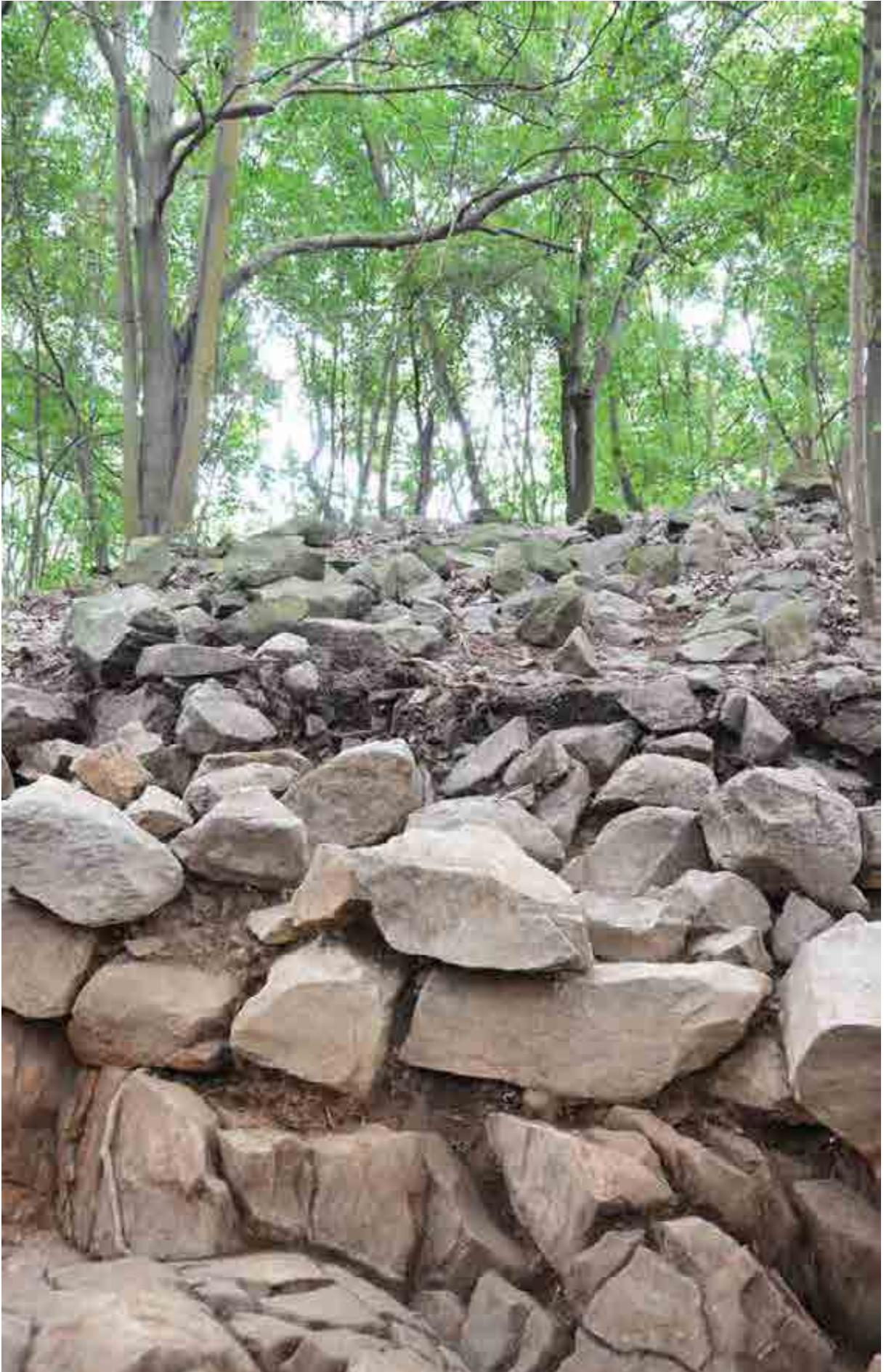
稲荷山地区 積石塚測量図



稲荷山姫塚古墳 後円部墳端（北西から）



稲荷山北端古墳 中円部（北西から）



稲荷山南塚古墳 後円部墳端（北から）



稲荷山姫塚古墳出土の円筒系埴輪

開催趣旨

近年実施した石清尾山古墳群（稲荷山地区）の調査によって、積石塚の具体的な構造や変遷などが明らかになるとともに、古墳時代前期を通じて積石塚を築造し続けることや、前期前半には古墳群中で最も大きな古墳として双方中円墳を築造するなど、地域の独自性を顕著に表す古墳群であることがより鮮明となりました。その一方で、峰山地区にある国史跡既指定の古墳では過去の調査・研究の成果はあるものの、現代の精度での調査は未実施です。本古墳群のさらなる価値向上のためには、古墳群の未来像を見据えた調査・研究を続けていく必要があります。

本シンポジウムは、まず国史跡に追加指定された石清尾山古墳群（稲荷山地区）の4基の積石塚の調査から明らかとなった古墳群の価値を紹介します。その後、考古学の学識経験者から、今回の調査・研究が古墳の研究にどのような進展をもたらしたのかを発表いただき、古墳群の未来へ向けて調査・研究をどのように進めていくべきかを検討いたします。

なお、シンポジウムの冒頭で高松市立亀阜小学校の児童から見た石清尾山の魅力を発表していただきますので、どうぞ御期待ください。

THE CAIRNS ON MT. IWASEO
NEAR TAKAMATSU, IN SANUKI

例 言

- 1 本書は、平成30（2018）年10月20日（土）に高松市 創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部 文化財課が主催するシンポジウム「石清尾山古墳群国史跡追加指定記念シンポジウムー古墳群の未来へ提言するー」における講演及び発表の要旨をまとめた資料集です。
- 2 本書の編集は、高松市 創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部 文化財課の担当職員が行い、各資料の執筆は発表者が行いました。原稿を執筆いただいた発表者の方々には、ここに記して感謝申し上げます。
- 3 石清尾山古墳群の国史跡追加指定や本シンポジウムを開催するに当たり、下記の関係機関に御協力をいただきました。記して感謝申し上げます（五十音順）。

香川県教育委員会

香川県東部林業事務所

香川県栗林公園観光事務所造園課

財務省四国財務局

高松市立亀阜小学校

農林水産省四国森林管理局香川森林管理事務所

文化庁記念物課

THE CAIRNS ON MT. IWASEO
NEAR TAKAMATSU, IN SANUKI

石清尾山古墳群国史跡追加指定記念シンポジウム

ー古墳群の未来へ提言するー

タイムテーブル（予定）

- 13:00～13:15 オープニングイベント～高松市立亀阜小学校 学習発表～
- 13:15～13:20 挨拶
大西 秀人（高松市長）
丹羽 佑一氏（香川大学 名誉教授）
- 13:20～13:40 講話
禰宜田 佳男氏（文化庁記念物課 主任文化財調査官）
- 13:40～14:40 記念講演
広瀬 和雄氏（国立歴史民俗博物館 名誉教授）
- 14:40～14:50 *休憩*
- 14:50～16:50 パネルディスカッション

古墳群の価値説明及び趣旨説明（高松市文化財課）

テーマ1

稲荷山地区の調査と一連の研究が、古墳等の研究にどのような進展をもたらしたか

大久保 徹也氏 発表

森下 章司氏 発表

テーマ2

どのような古墳群の未来像を持って調査・研究を行うべきか（古墳群の未来へ提言する）

THE CAIRNS ON MT. IWASEO
NEAR TAKAMATSU, IN SANUKI

目 次

開催趣旨／例言／タイムテーブル

講 話

史跡石清尾山古墳群のこれから-古墳と地域づくり……………	禰 宜 田 佳 男	1
------------------------------	-----------	---

記 念 講 演

石清尾山古墳群を考える……………	広 瀬 和 雄	3
------------------	---------	---

石清尾山古墳群の保存・活用の現状と展望……………	高松市文化財課	15
--------------------------	---------	----

発 表

石清尾山古墳群調査の意義-稲荷山北端古墳が示すこと……………	大 久 保 徹 也	23
--------------------------------	-----------	----

発 表

稲荷山地区の調査成果と石清尾山古墳群の評価……………	森 下 章 司	35
----------------------------	---------	----

コーディネーター・パネリストの紹介

コーディネーター

丹 羽 佑 一 氏 (香川大学 名誉教授)

パネリスト

禰 宜 田 佳 男 氏 (文化庁記念物課 主任文化財調査官)

広 瀬 和 雄 氏 (国立歴史民俗博物館 名誉教授)

大 久 保 徹 也 氏 (徳島文理大学 教授)

森 下 章 司 氏 (大手前大学 教授)

THE CAIRNS ON MT. IWASEO
NEAR TAKAMATSU, IN SANUKI

講 話

史跡石清尾山古墳群のこれから —古墳と地域づくり—

文化庁記念物課 主任文化財調査官 禰宜田 佳男

勝賀山より撮影

史跡石清尾山古墳群のこれからー古墳と地域づくりー


文化庁記念物課 禰宜田 佳男

はじめに

- 1 現在の日本のおかれた現状
人口減、少子高齢化
税収減
- 2 史跡とは
「我が国にとって歴史上または学術上価値の高い」もの
- 3 石清尾山古墳群とは
- 4 史跡になるとどうなるのか
- 5 文化財保護法改正と今後の文化財保護
- 6 文化づくり・人づくりと史跡

おわりに

「オンリーワンの史跡を目指して」

A black and white aerial photograph of a city, likely Hiroshima, with a river in the foreground and mountains in the background. The sky is filled with scattered clouds. The text is overlaid on the upper half of the image.

記念講演
石清尾山古墳群を考える

国立歴史民俗博物館 名誉教授 広瀬 和雄

屋島山頂より撮影

2018年10月20日

石清尾山古墳群を考える

広瀬和雄

1 石清尾山古墳群①

(1) 前方後円墳が9基、双円墳が3基。古墳時代前期の首長墓が合計12基。

①墳長50m以上、100m未満が5基、30～50mが4基、30未満が3基。②最大は猫塚古墳の96m。

(2) 瀬戸内海を見る／見られる。

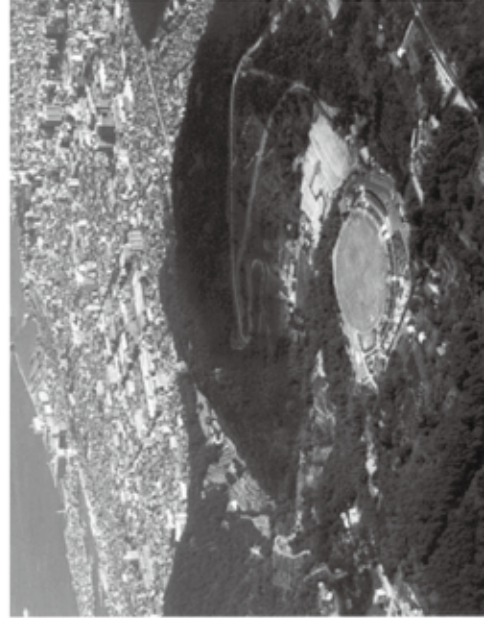
(3) 学術的な重要性から国史跡。

(4) 後・終末期群集墳の研究と保存・整備も課題だが、今回は省く。



石清尾山古墳群の位置と分布

高松市教委「石清尾山古墳群（稲荷山地）区画調査報告書」2018



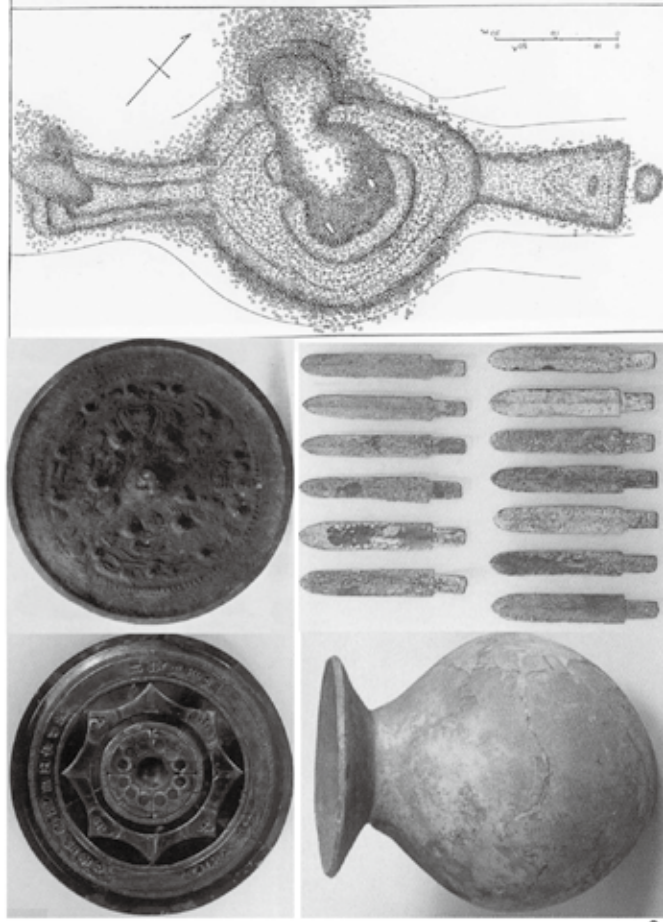
2 石清尾山古墳群②

猫塚古墳 (右)

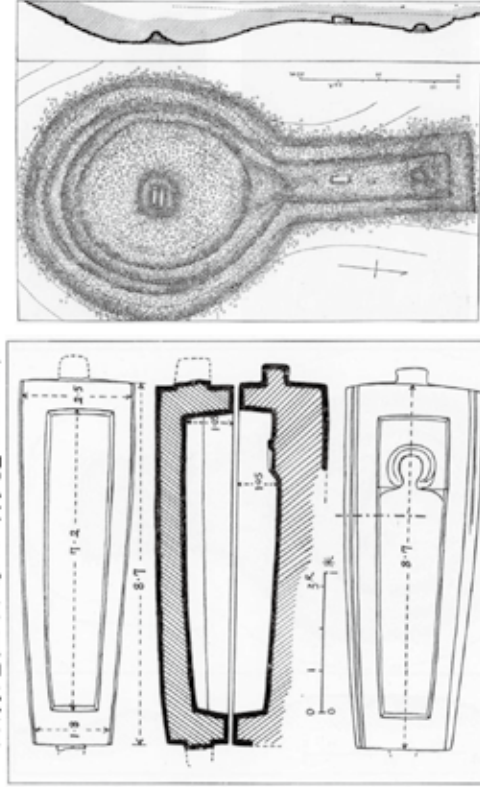
- (1) 墳長96mの双方中円墳。
- (2) 竖穴石槨が数基。
- (3) 内行花文鏡2、獸帯鏡1、四獸鏡1、仿製三角縁神獸鏡1。石釧1、筒形銅器3、銅鏃8、銅劍17。鉄刀1、鉄劍4。斧1、鑿1、ヤリガンナ1。土師器壺1。威信財十権力財十生産財。

石船塚(いしふねつか)古墳(下)

- (1) 墳長57mの前方後円墳。
- (2) 後円部に割竹形(割り抜き式)石棺。
- (3) 前方部の竖穴石槨から変形神獸鏡。
- (4) 土師器壺、円筒埴輪。

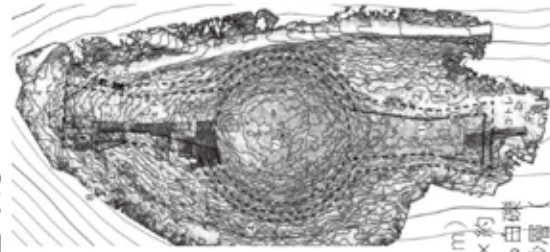
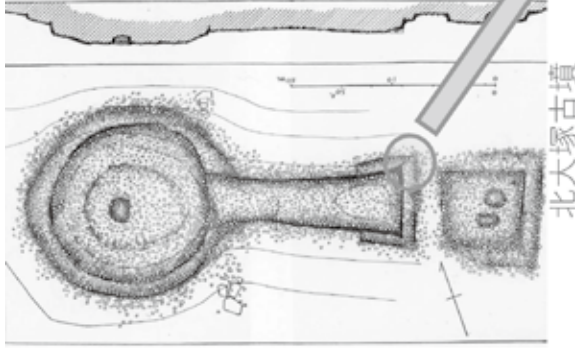


石清尾山古墳群の調査・研究は、梅原末治氏を嚆矢とする(『讃岐石清尾山石塚の研究』1933)



3 石清尾山古墳群③

- 北大塚古墳(右)
墳長39.8m前方後円墳。
稲荷山北端古墳(下)
墳長約69mの双方中円墳。
石清尾山古墳群の特徴
(1)積石塚古墳と双方中円墳。
(2)瀬戸内海を見下ろす丘陵につく
られた海浜型前方後円墳。
(3)複数の首長がつくった、古墳時
代前期の共同墓域。



稲荷山北端古墳



奈良県樟山古墳(約15.5m)
「後方部」は祭壇。3.4m×約5mを垂直に掘る。上部から白礫層(厚さ約80cm)、細砂層(厚さ13cm)、赤色細砂層(厚さ5cm)、黄赤色・黒褐色粘質土(厚さ20cm)。

4 石清尾山古墳群④

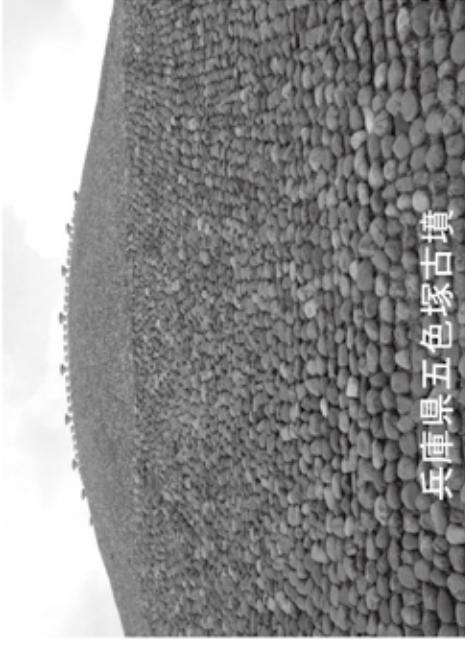
(1)積石塚。①内在的要因。A.安山岩系盤露頭の礫石を積む。B.弥生墳墓との連続性。②外在的要因。高句麗積石塚古墳との関連。

(2)各地の前期前方後円墳の外観。①Aa型・葺石。Ab型・積石塚。B型・葺石はない。②Aa型とAbB型は、遠望すると変わらない。③Aa・Ab型とB型は、「石山」と「土まんじゅう」で大幅に違う。

(3)3世紀中頃～4世紀後半頃の前期で途絶し、中期にはつづかない。讃岐全体でも中期～後期前半は有力古墳がさほど見あたらない、という「不自然さ」。それをどう考えるか。

稲荷山北端古墳	前期前半古相	稲荷山	双方中円	積石	69.0
鶴尾神社4号墳	前期前半古相	峰山	前方後円	積石	40.0
石清尾山9号墳	前期前半古相	峰山	前方後円	積石	27.4
稲荷山南塚古墳	前期前半新相	稲荷山	前方後円	積石	38.0
稲荷山姫塚古墳	前期前半新相	稲荷山	前方後円	積石	51.3
猫塚古墳	前期前半新相	峰山	双方中円	積石	96.0
鏡塚古墳	前期前半新相	峰山	双方中円	積石	68.7
姫塚古墳	前期後半古相	峰山	前方後円	積石	43.0
北大塚古墳	前期後半古相	峰山	前方後円	積石	39.8
石船塚古墳	前期後半新相	峰山	前方後円	積石	57.0
稲荷山南塚北古墳	前期前半新相	稲荷山	円	積石	～10.0
北大塚西古墳	前期	峰山	前方後円	積石	19.0
北大塚東古墳	前期	峰山	方	積石	10.0 (長辺)
小塚古墳	前期	峰山	前方後円	積石	16.5

石清尾山古墳群の營造された時期（『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』2018）



5 茨城県梵天山古墳(事例①)

(1) 一般的に前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳は、古墳時代の政治関係を反映するとみなされている。

① どのような政治関係をあらわすのか。② そもそも、前方後円墳とはなにか、などを各地の二、三の事例で検討してみよう。

(2) 梵天山(ほんてんやま)古墳は、バチ形前方部をそなえた墳長160mの前方後円墳。

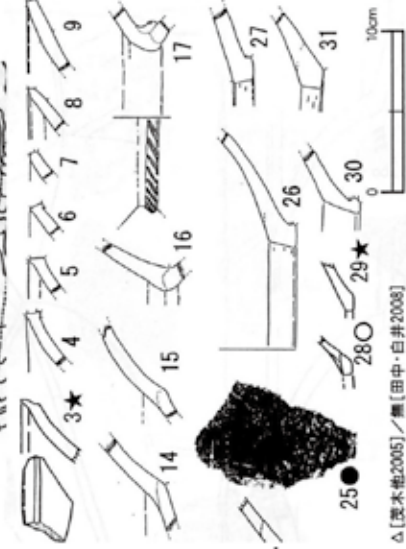
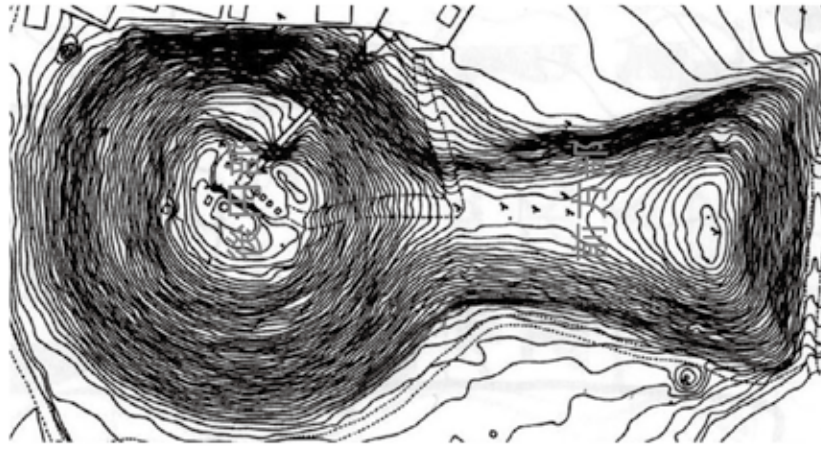
① 1期(3世紀中頃～後半)の築造だが、初期前方後円墳では奈良県箸墓(はしほか)古墳、京都府椿井(つばい)大塚山古墳につぐ巨大さ。

② 常陸北部の弥生時代後期後半(十王台(じゅうおうおうだい)文化)には、墳墓造営の伝統がない。前方後円墳築造にいたるイデオロギーや技術がない。

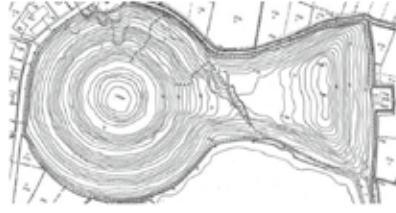
③ 前方後円墳の造営が、在地の動きから出てくるはずがない。

(3) 畿内中枢(大和政権)が、常陸北部の特定首長を抽出し、中央一地方の政治秩序に取り込み、常陸北部の統治を委ねた...

(4) 3世紀中頃～後半には、列島各地でバチ形前方部の初期前方後円墳がつくられた。



△[奥本他2005]／■[田中・白井2008]



箸墓古墳290m
(国立歴史民俗博物館研究報告書
『第3集、1984』)



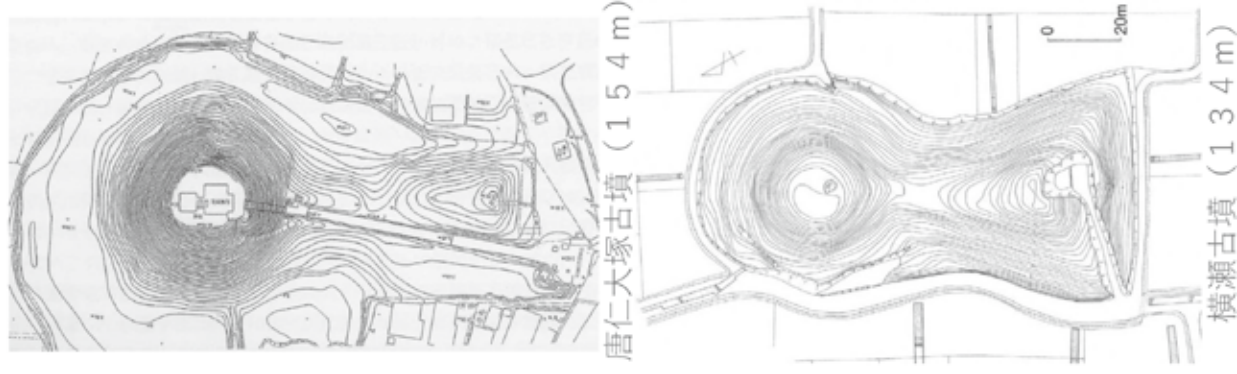
椿井大塚山古墳175m
(京都大学文学部編『椿井大塚山古墳
と三角縁神祇鏡』1989)

梵天山古墳の 墳丘と土器

(稲田健一「茨城県久慈
川・那珂川流域の藤相」
『第14回東北関東前方
後円墳研究会発表要旨』
2009)

6 大隅半島の前方後円墳(事例②)

- (1)『日本書紀』の「隼人」。シラス台地。「辺境」のイメージが強い。
- (2)前期首長墓は一系譜(塚崎古墳群)だが、4世紀末～5世紀中頃の前方後円墳14基、円墳約180基。①なかでも、飯盛山・唐仁大塚・横瀬古墳などは大型前方後円墳。②食料生産に適した平野はない。
- (3)5世紀後半に前方後円墳は一斉に終焉。①前期から中期への「飛躍」、中期から後期への「凋落」。②とうてい、大隅地域だけの自発的な動きとは思えない。



7 長野県飯田古墳群(事例③)

- (1)狭い地域(長さ10km、幅3km)に、前方後円(方)墳が20数基。
(2)前期は前方後方墳が1基だけ。ほかの前方後円墳は5世紀後半～6世紀末。
①5世紀後半に7グループが、同時平行で一気に造営されはじめる。②ABDFグループは6世紀前半で終了。③CEGグループは6世紀末(7世紀初め)まで古墳を築造。④多系統の横穴式石室。
(3)5世紀後半の前方後円墳の激増は、在地の動向では解釈がたい。他律的な力が働く。
①馬葬や多数の馬具。②神坂(みさか)峠を前にした「もの」・人の最終チェックポイント。
(4)畿内中枢と信濃・北関東一馬匹生産一を結ぶ、馬を中心とした「もの」・人の集散センターが、中央政権の主導で設けられた。



8 前方後円墳はく共通性と階層性を見せる墳墓

(1)北海道・北東北と沖繩を除く日本列島で、3世紀中頃から7世紀初め頃まで、前方後円墳(一部前方後方墳)は約5,200基つくられた。

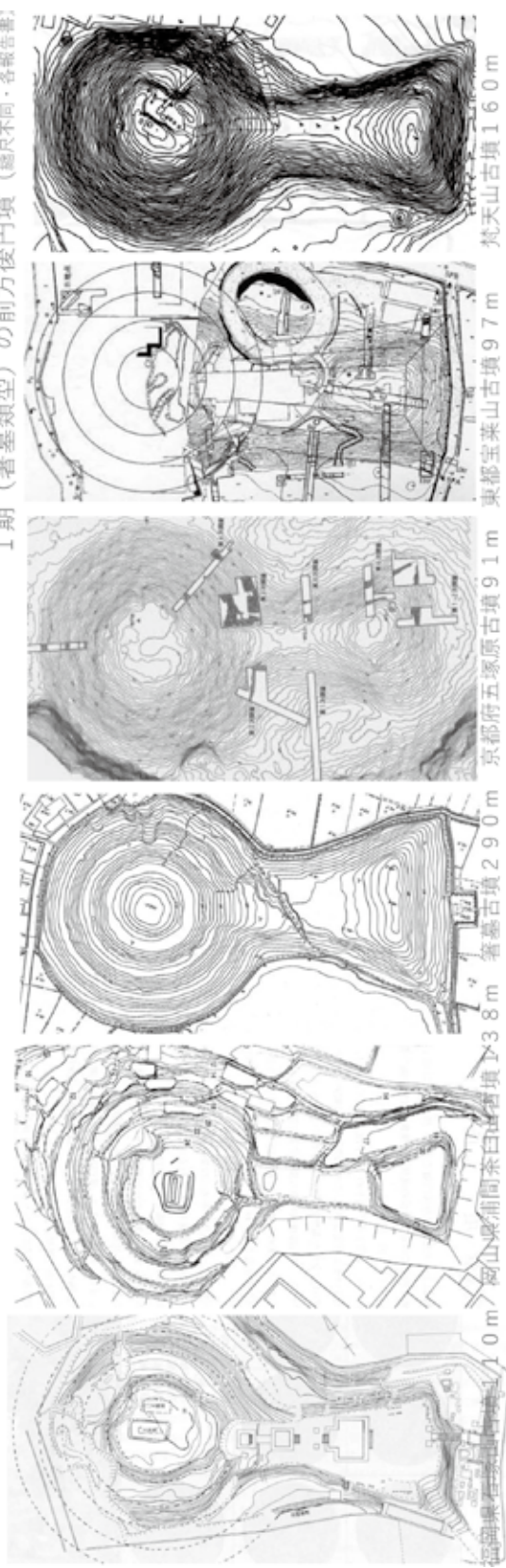
①限られた時代と地域。②前後の時代の墓制とは一線を描く。③地域的な差異をもちながら、共通した一墳丘・埋葬施設・副葬品の組み合わせなど一墳墓様式。

(2)出現した当初から、終息するときまで終始、共通性と階層性を見せる墳墓(下)。

①共通性は広域首長層のくわれわれ意識。②階層性は前方後円墳国家のメンバーシップ。③交通の要衝などで、可視的な政治秩序をしめす。④いつも中核には大和川水系の巨大前方後円墳(有力首長層)。

(3)く不連続の連続性と偏在性だが、各地の前方後円墳のいまひとつの特性。

①在地首長の任意だけでは、解けない事実が目白押し。②その造営は在地首長の自由裁量ではない。中央と地方の政治動向をあらわす。③生産・生活の経済的社会的構成と、政治的社会的構成が整合的とは限らない。



10 石清尾山古墳群の意義

- (1) それでは石清尾山古墳群の意義はどこにあるのか。
- (2) 強い結びつきをもった讃岐中部の有力首長(2~3人くらい)が、石清尾山を共同墓域に定めて、3世紀中ごろに前方後円墳をつくる。
- (3) 4世紀にいたるまで、前方後円墳国家—「もの」・人の交通を中軸にした首長層の利益共同体の一員として、「石清尾山首長層」は重要な地位を占める。
 - ① 水運に長けた多数の海民を統括し、対外交渉(南部朝鮮からの鉄素材など)を担当した首長層？
 - ② 瀬戸内海の水運(船運)が重要な交通手段。
 - ③ 4世紀末頃に政治的な再編。讃岐中部首長層の政治的地位が低下(中央政権にとっての)。
 - ④ 5世紀初めには、讃岐東部の富田茶臼山古墳(139m)に統合される。
 - ⑤ それも一代限り。
- (5) 前方後円墳からみた讃岐の政治情勢の見通し。
 - ① 前期前方後円墳は60基ほど。大型は快天山古墳100m、猫塚古墳96mなど。
 - ② 中期前方後円墳は数基に激減(帆立貝形を含めても10基程度)し、系譜的安定さを欠く。
 - ③ 後期前方後円墳は4基。6世紀後半~末に急激に、複数の巨石墳が築造される。再び中央政権にとって海運の重要性が高まる。



11 参考・古墳時代研究を制約している歴史観

(1)「初期の大和政権は地方勢力と連合・同盟していた。やがて、大和政権は反乱を制圧して地方勢力を服属させ、中央集権国家を成立する」。「古墳時代は律令国家への前史、形成過程」が既往の古墳時代像。

①「古墳時代＝無文字＝首長同盟＝未開」、「奈良時代＝文字＝都市＝国家＝文明との＜未開・文明史観＞。②「古墳時代→律令国家へと発展した」との歴史観だと、「初期前方後円墳の梵天山古墳や、大和川水系を除く各地での中期前方後円墳の希少性や、東国での後期前方後円墳の爆発的増加」(下)を、どう理解するのか。

(2)大筋では8世紀の『記紀』の記述を、3～6世紀の古墳時代解釈の前提にする。

①「前期→中期→後期→大和政権が強大化し、地方勢力が没落した」は実証されていない。

②おなじ前方後円墳のどこで「連合・同盟」を言い、何をもって「服属」とみなすのか。

(3)3世紀中頃～7世紀初頭の古墳時代は、律令国家とは異なるシステムをもった時代(概略は省く)。

(4)前方後円墳は中央一地方の政治秩序をあらわす墓制であって、古墳時代の政治全般を語るものではない。①前方後円墳の地域的個性は、汎列島の共通性のなかの多様性にすぎない。②「同じ」と「違い」は等価値だが、古墳時代研究は「違い」を強調しすぎ。③地域の歴史をそこだけでなく、もっと広い視野で見る。

時期	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	小計
8期	5基	5基	98基	3基	4基	0	0	115基
9期	20基	3基	40基	16基	12基	3基	3基	97基
10期	48基	68基	132基	74基	98基	3基	11基	434基
小計	73基	76基	270基	93基	114基	6基	14基	646基

関東地方の後期前方後円墳(広瀬和雄・太田博之編『前方後円墳の終焉』2010)

石清尾山古墳群の保存・活用の現状と展望

高松市文化財課

円座町 香東川付近より撮影

石清尾山古墳群の保存・活用の現状と展望

高松市文化財課

1 はじめに

本市では、史跡石清尾山古墳群の保存と活用に向けた事業を実施しています。保存対策の第一段階として、稲荷山地区の積石塚を平成24～28年度にかけて調査し、本年10月に国史跡に追加指定されました。

稲荷山地区の調査成果を振り返りつつ現状を整理し、一連の成果から見えてきた課題を見据えて、次に進むべき方向性を検討します。

稲荷山地区の調査成果

- ・ 4基の積石塚の墳形・規模・墳丘の外表構造・築造時期が判明しました。
- ・ 双方中円墳1基を新たに発見しました（稲荷山北端古墳）。
- ・ 積石塚の外表構造を詳細に把握し、分類案と時期的な変遷案を提示しました。
- ・ 石清尾山古墳群の変遷が判明しました（古墳の分布範囲・築造数・内容等から、古墳時代前期前半に盛期となり、前期後半には衰退傾向、中期には古墳を築造しません）。

2 石清尾山古墳群の保存

(1) 「保存」に関する現状

石清尾山古墳群は、45基の積石塚と162基の盛土墳で構成されています。現在、16基（古墳時代前期の積石塚14基と後期の盛土墳2基）の古墳が国史跡に指定され保護されています。また、それ以外は、「周知の埋蔵文化財包蔵地」に登録されています。

(2) 「保存」に関する課題

① 範囲の把握

- ・ 国史跡既指定古墳の測量等の必要性

→多くは測量データが古く、古墳の範囲、すなわち史跡として保存すべき範囲を正確に把握できていません。指定範囲の再確認が必要です。

② 追加指定

- ・ 国史跡未指定の積石塚等の調査と追加指定の必要性

→積石塚のうち、小規模墳が未指定となっています。石清尾山古墳群の被葬者集団像を

解明するための貴重な古墳であり、保存が必要です。また、盛土墳もその文化的価値を検討し、調査と追加指定を計画していきます。

③遺構の保全

- ・積石塚の墳丘や、古墳上に露出する石棺等の保存対策が必要です。

3 石清尾山古墳群の活用

(1)「活用」に関する現状

国史跡の古墳に説明看板を設置することや、普及用のパンフレット作成、古墳群の見学会等を開催しています。

(2)「活用」に関する課題

史跡の本質的価値をどのように明確化し、活用するかの体系的な計画が作成されていません。

4 おわりに

史跡をより良い姿で後世に継承するために、保存と活用の両輪で事業を運営していくことが重要と考えています。

保存については、まずは既指定古墳の墳丘範囲を確認するための調査、未指定古墳の調査を行い、国史跡への追加指定を計画する予定です。活用については、古墳群の歴史的価値を顕在化させるための調査・研究を行い、それを基礎とした史跡の活用に努めます。この保存と活用の基本方針となるのが「保存活用計画」であり、それを基に整備事業を進めていきます。

現在、高松市は「保存活用計画」の作成に着手しています。計画作成や整備事業の進捗のためには、地元の方々をはじめとして関係される方々の協力が不可欠です。石清尾山古墳群を適切に保存・活用していくためにも、皆様方の御協力を得ながら事業を進めていきたいと考えています。





禰
宜
田



広
瀬



高
松
市
③



久
保

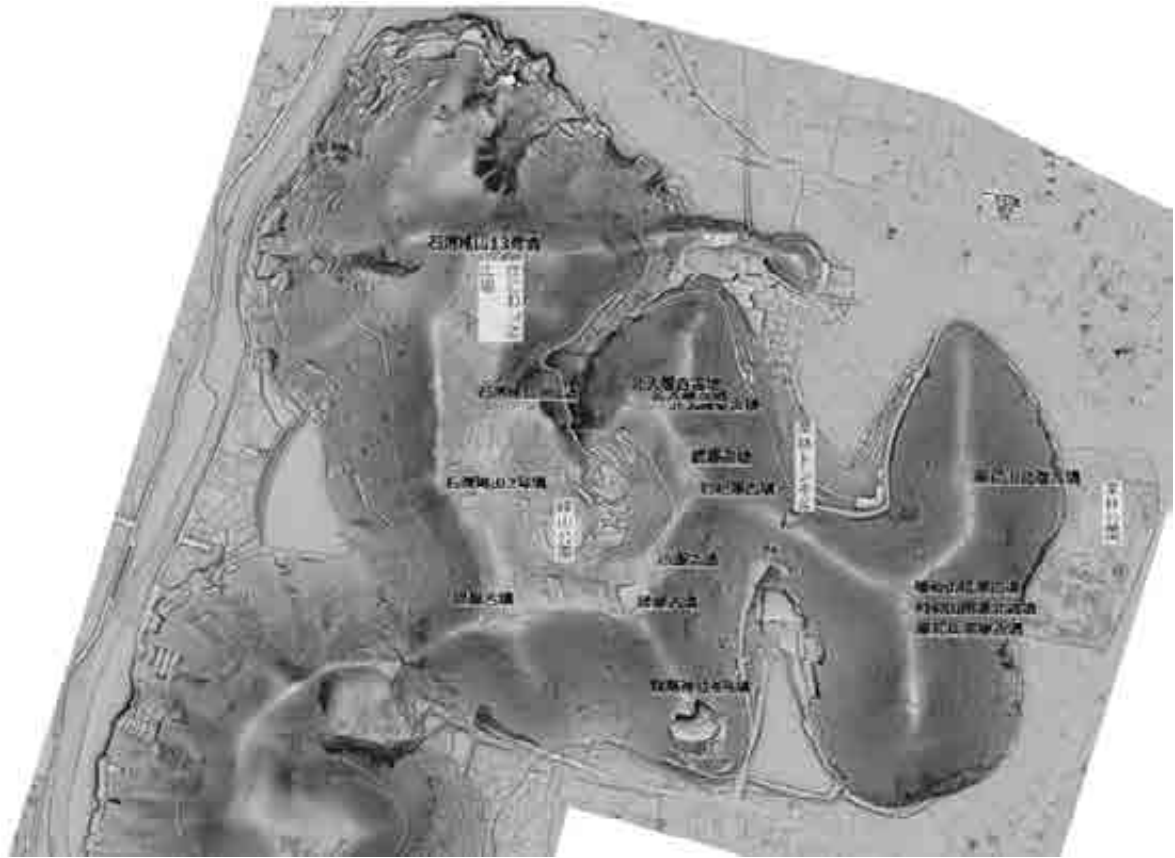


森
下



- 1 猫塚古墳 2 姫塚古墳 3 小塚古墳 4 石船塚古墳 5 鏡塚古墳 6 北大塚古墳 7 北大塚東古墳 8 北大塚西古墳
 - 9 石清尾山2号墳 10 石清尾山9号墳 11 石清尾山13号墳 12 鶴尾神社4号墳 13 稲荷山姫塚古墳 14 稲荷山南塚古墳
 - 15 稲荷山南塚北古墳 16 稲荷山3号墳 17 稲荷山2号墳 18 稲荷山北端古墳 19 稲荷山北端2号墳 20 稲荷山北端3号墳
 - 21 稲荷山北端4号墳 22 稲荷山5号墳 23 西方寺4号墳 24 西方寺6号墳 25 西方寺5号墳 26 木里神社2号墳 27 木里神社3号墳
 - 28 木里神社5号墳 29 木里神社4号墳 30 木里神社6号墳 31 木里神社1号墳 32 石清尾山14号墳 33 石清尾山15号墳
 - 34 石清尾山16号墳 35 峰山墓地内4号墳 36 峰山墓地内3号墳 37 峰山墓地内2号墳 38 峰山墓地内1号墳 39 石清尾山17号墳
 - 40 石清尾山18号墳 41 石清尾山12号墳 42 石清尾山11号墳 43 石清尾山19号墳 44 石清尾山20号墳 45 石清尾山10号墳
 - 46 石清尾山23号墳 47 北大塚北方2号墳 48 北大塚北方1号墳 49 摺鉢谷西斜面5号墳 50 石清尾山7号墳 51 石清尾山8号墳
 - 52 摺鉢谷西斜面4号墳 53 石清尾山21号墳 54 石清尾山6号墳 55 摺鉢谷西斜面3号墳 56 摺鉢谷西斜面1号墳 57 石清尾山3号墳
 - 58 摺鉢谷西斜面2号墳 59 石清尾山5号墳 60 石清尾山4号墳 61 摺鉢谷東斜面1号墳 62 摺鉢谷東斜面2号墳
 - 63 摺鉢谷東斜面3号墳 64 摺鉢谷東斜面5号墳 65 摺鉢谷東斜面4号墳 66 摺鉢谷東斜面7号墳 67 摺鉢谷東斜面6号墳
 - 68 摺鉢谷東斜面10号墳 69 摺鉢谷東斜面9号墳 70 摺鉢谷東斜面8号墳 71 摺鉢谷東斜面11号墳 72 摺鉢谷東斜面12号墳
 - 73 摺鉢谷東斜面13号墳 74 摺鉢谷東斜面15号墳 75 石清尾山22号墳 76 石清尾山1号墳 77 摺鉢谷東斜面14号墳
 - 78 石船塚東方古墳 79 奥ノ池4号墳 80 奥ノ池5号墳 81 鶴尾神社1号墳 82 鶴尾神社2号墳 83 鶴尾神社3号墳
 - 84 鶴尾神社5号墳 85 北山浦3号墳 86 北山浦1号墳 87 北山浦2号墳 88 御殿神社2号墳 89 御殿神社3号墳 90 御殿神社1号墳
 - 91 御殿神社4号墳 92 御殿貯水池4号墳 93 御殿貯水池1号墳 94 御殿貯水池2号墳 95 御殿貯水池3号墳 96 野山10号墳
 - 97 野山11号墳 98 野山3号墳 99 野山9号墳 100 野山1号墳 101 野山5号墳 102 野山6号墳 103 野山2号墳 104 野山8号墳
 - 105 野山4号墳 106 野山7号墳 107 南山浦12号墳 108 南山浦13号墳 109 南山浦11号墳 110 南山浦6号墳 111 南山浦9号墳
 - 112 南山浦10号墳 113 南山浦8号墳 114 南山浦4号墳 115 南山浦5号墳 116 南山浦7号墳 117 南山浦3号墳 118 南山浦2号墳
 - 119 南山浦1号墳 120 浄願寺山56号墳 121 浄願寺山57号墳 122 小山山頂古墳 123 片山池1号墳 124 片山池2号墳
 - 125 片山池3号墳 126 がめ塚古墳 127 がめ塚2号墳 128 がめ塚3号墳 129 がめ塚4号墳
- A 浄願寺山古墳群 B 奥の池古墳群

図1 石清尾山古墳群分布図



古墳名	時期 (古墳時代)	エリア	墳形	墳丘	規模 (m)		
					全長	後円部径 (主軸直交)	前方部長
稲荷山北端古墳	前期前半古相	稲荷山	双方中円	積石	69.0	28.2 (中円部)	約21.0 (北方形部) 20.0 (南方形部)
鶴尾神社4号墳	前期前半古相	峰山	前方後円	積石	40.0	18.0	21.3
石清尾山9号墳	前期前半古相	峰山	前方後円	積石	27.4	13.1	14.3
稲荷山南塚古墳	前期前半新相	稲荷山	前方後円	積石	38.0	20.6	17.6
稲荷山姫塚古墳	前期前半新相	稲荷山	前方後円	積石	51.3	28.0	23.4
猫塚古墳	前期前半新相	峰山	双方中円	積石	96.0	44 (中円部)	27.5 (西方形部) 24.5 (東方形部)
鏡塚古墳	前期前半新相	峰山	双方中円	積石	68.7	29.4 (中円部)	15.1 (北方形部) 17.0 (南方形部)
姫塚古墳	前期後半古相	峰山	前方後円	積石	43.0	23.3	19.8
北大塚古墳	前期後半古相	峰山	前方後円	積石	39.8	18.9	18.3
石船塚古墳	前期後半新相	峰山	前方後円	積石	57.0	34.0	25.7
稲荷山南塚北古墳	前期	稲荷山	円	積石	~10.0	-	-
北大塚西古墳	前期	峰山	前方後円	積石	19.0	9.0	10.0
北大塚東古墳	前期	峰山	方	積石	10.0 (長辺)	9.0 (短辺)	-
小塚古墳	前期	峰山	前方後円	積石	16.5	9.0	7.5

図2 史跡石清尾山古墳群 一覧



禰
宜
田



広
瀬



高
松
市
⑤



久
保



森
下



稲荷山北塚古墳



稲荷山東塚古墳



稲荷山西塚古墳



北大塚古墳



鏡塚古墳



石船塚古墳



鶴塚古墳



稲尾神社4号墳



菟塚古墳



石清尾田9号墳

図3 主要古墳からの可視領域

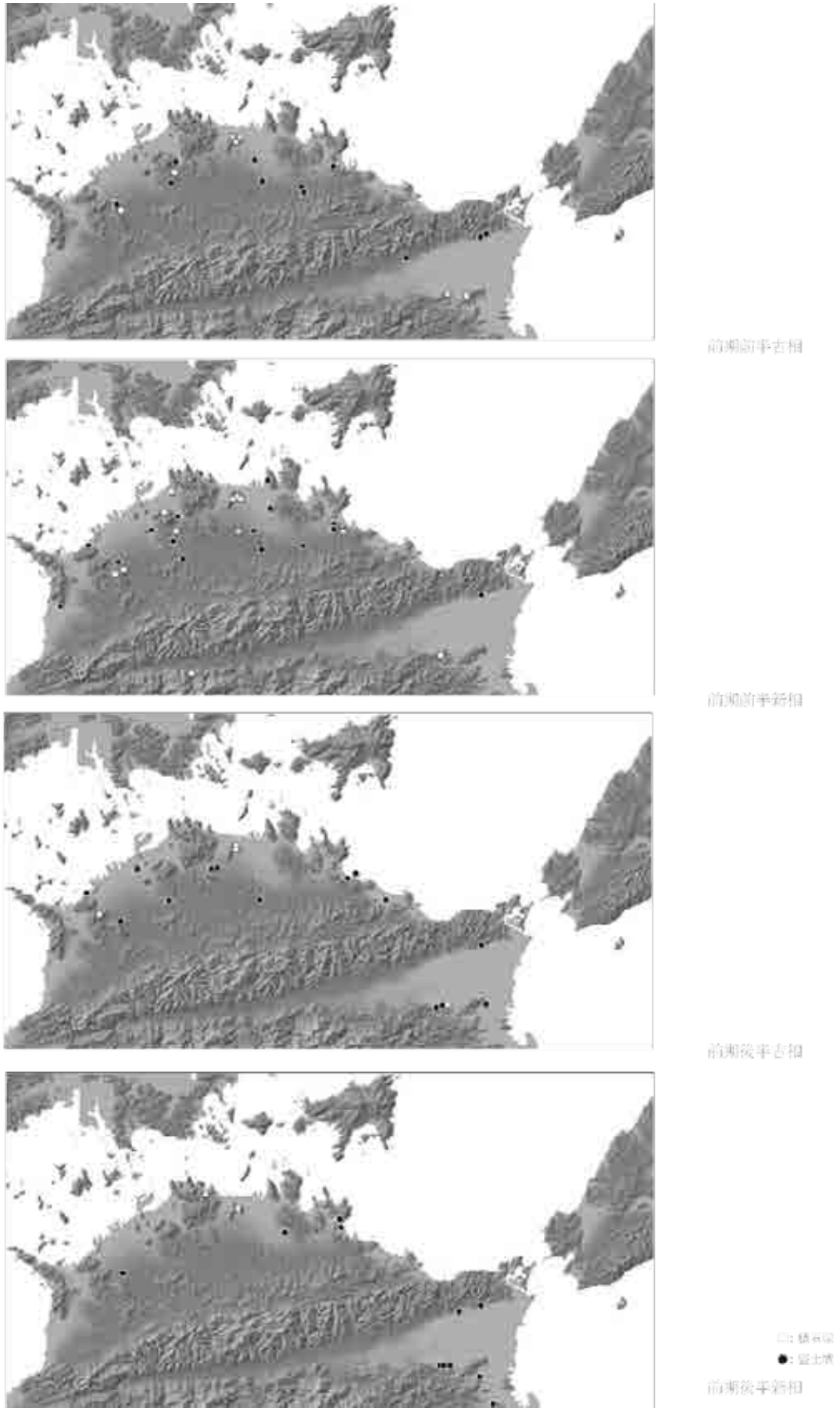


図4 時期別積石塚と盛土墳の分布図

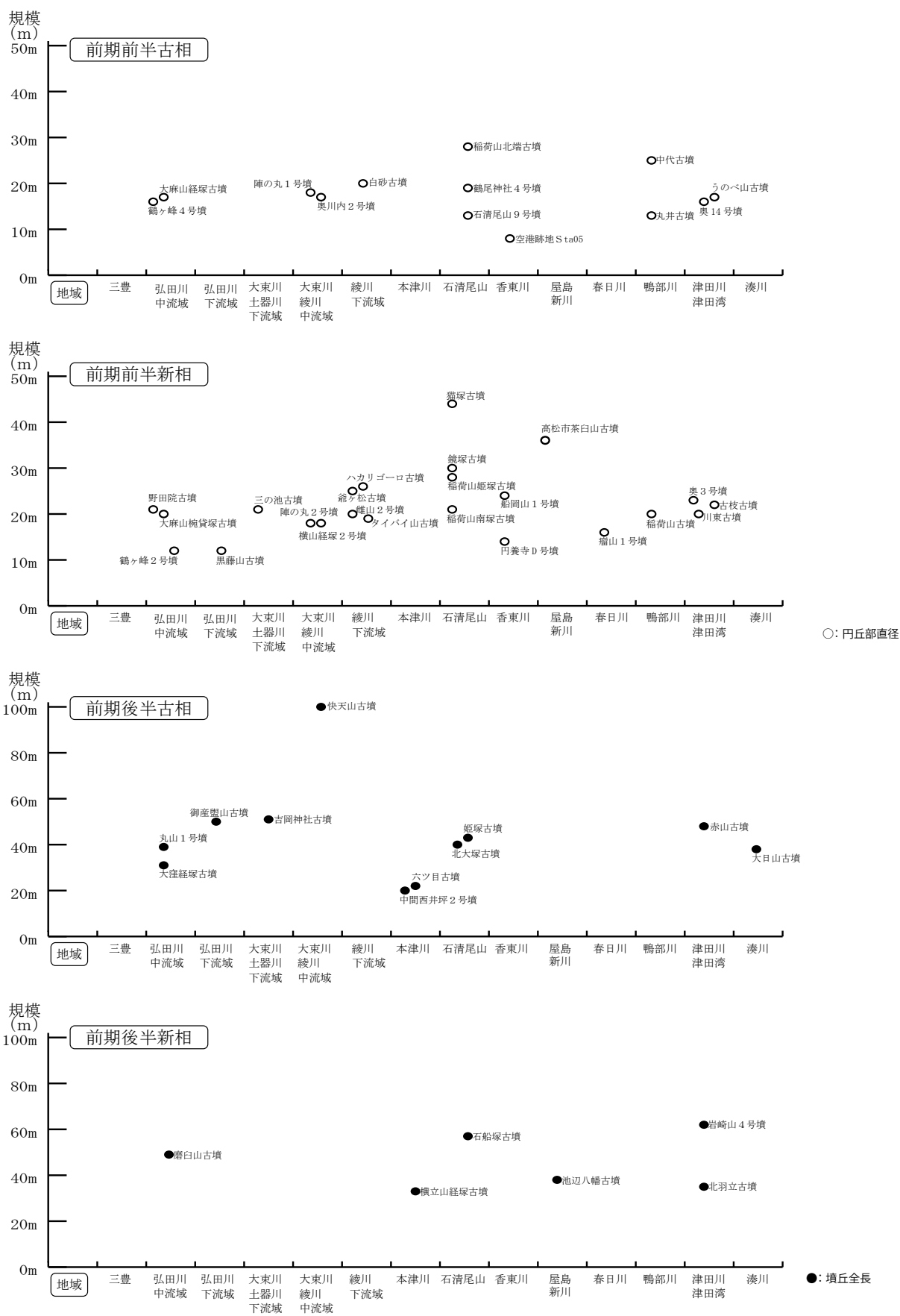


図5 時期別主要古墳墳丘規模比較

発 表

石清尾山古墳群調査の意義
—稲荷山北端古墳が示すこと—

徳島文理大学 教授 大久保 徹也

瀬戸内海より撮影

石清尾山古墳群調査の意義—稲荷山北端古墳が示すこと—

徳島文理大学 大久保 徹也

1. 追加指定に向けた石清尾山古墳群調査の成果

- ・ここでは最も重大な、いかえれば最も古墳時代研究の進展につながる成果を一点だけ絞って、論を進めようと思う。
- ・稲荷山北端古墳の墳丘形態が判明し、さらに外表施設構造（積石段の仕様）等からその築造時期を推測できたことは重要だ。古墳時代前期イメージに一石を投じるものだと思う。
- ・稲荷山北端古墳は径 28 m の円丘の南北二方にそれぞれ 20m 前後の突出部を付し、全体として主軸長 $65\text{ m} + \alpha$ の双方中円形を呈することが確定した。
- ・次の 1) ~ 3) によって稲荷山北端古墳は、石清尾山古墳群最初期に位置づけられる積石墳墓の一つであり、築造はほぼ前方後円墳様式の創出時期まで遡ると推測できる。
 - 1) 出土土器は少ないが、定式的な円筒埴輪、ないしは稲荷山姫塚古墳等に伴う古い異形の円筒「系」埴輪すら伴わない。
 - 2) 最大 4 m 前後の高さと復原される立体的に造作された円丘部に比べ、ごく低平な突出部は鶴尾神社 4 号墳、摺鉢谷 9 号墳といった古い前方後円墳の前方部の形に通じる。
 - 3) 南側の突出部前面だけはやや大ぶりの塊石を並べて区画する。このスタイルは鶴尾神社 4 号墳、摺鉢谷 9 号墳の前方部前面の作りに通じる。

2. 稲荷山北端古墳築造時期の遡上が意味すること

- (1) 鏡塚古墳、猫塚古墳に加え、石清尾山古墳群には 3 基の双方中円墳が存在した。しかも、この特異な墳丘形態の成立は石清尾山古墳群の成立時期に遡る。一方、同時に鶴尾神社 4 号墳などの前方後円墳も築かれる。意図的に墳丘の形を作り分けているのだ。

ここで石清尾山古墳群の積石墳墓の形態と規模の関係を整理しておこう。次の 5 類型-①~⑤-を設定できる。

①双方中円（円丘径 40 ~ 30m 級）

- ②前方後円（円丘径 30m 級） - ③前方後円（円丘径 20m 級）

- ④前方後円（円丘径 10m 級） - ⑤円 / 方（10m 未満）

大型積石墳墓には双方中円形を採用し、その対極に 10 m 未満級の円 / 方形積石墓がある。前方後円墳は規模から三階級に区分できるだろう。なお詳しく見ると双方中円墳の築造は古墳時代前期でも前半段階に限られる。上記した墳形と規模の序列的構成は前期の半ばには変化したことがわかる。

前半期: 双方中円-前方後円 (円丘 20m 級) -前方後円 (円丘 10m 級) -円 / 方 (10m 未満)

後半期: 前方後円 (30m 級) -前方後円 (20m 級) -円 / 方 (10m 未満)

これら双方中円墳は、その規模から、積石類型／盛土類型を通じて、讃岐一円で最上位クラスの墳墓であった。前半期には群小前方後円墳の上にはいわば「スーパー前方後円墳」として双方中円墳が企画され、それは連続して石清尾山に築かれた。一方、後半期は円丘径 30 m 級前方後円墳だけで、あきらかに石清尾山古墳群の勢威は低下した。

(2) 古墳時代には新しい墳丘墓の様式-前方後円墳-が列島各地に広がる。一貫して最も巨大な前方後円墳は「大阪湾岸やその後背エリア」(後の畿内)に築かれる。極端な墳丘規模の較差と墳丘形態の差を、地域(集団)間の序列的關係の表現とみて、最大規模前方後円墳を築く勢力を頂点に、列島の諸地域がこれに従属する構図が推測されている。古墳時代の開始期に列島規模の政治秩序の形成を読み取る考え方だ。

たしかに中期古墳のあり方はこの理解に適合する。列島諸地域の中期古墳は古市古墳群／百舌鳥古墳群の巨大前方後円墳を頂点とする統一的な序列体系に則って築かれたと解される。もちろん讃岐地域も例外ではない。中期前葉の富田茶臼山古墳、そして以後の前方後円墳の不在はこのことをよく示す。

(3) しかし、古墳時代前期、特にその前半期は中期的なあり方とは異なっている。石清尾山古墳群の双方中円墳は、それを最上位の墳墓形態に位置づける地域的な独自の序列体系の存在を推測させる。この点が重要だ。

新しい墳丘墓の様式(前方後円墳)創出段階の初期構想では、これを広域的な政治秩序の頂点(王)および次位クラス(幹部)の墳墓様式と位置づけるものであった。奈良盆地とその周辺において、前方後円墳築造の裾野は決して広くなかった。

双方中円墳と下位に小形前方後円墳という讃岐地域の序列構成は、完全にここから逸脱する。そもそも円丘径 30 m 級やそれ未満というごく小型の前方後円墳は創出エリアの初期構想にないものだ。もちろん双方中円墳という形態もそうだ。

稲荷山北端古墳の存在から、最新の墳丘墓の様式を援用しながら、その意味を「換骨奪胎」して、独自の序列体系を築こうとした意図を積極的に評価したい。同型的な試みは、他にも例えば出雲地域の前期古墳から読み取りうる。こうしたことがまま発生するのは、中期とは異なる古墳時代前期の時代的特質だと考える。

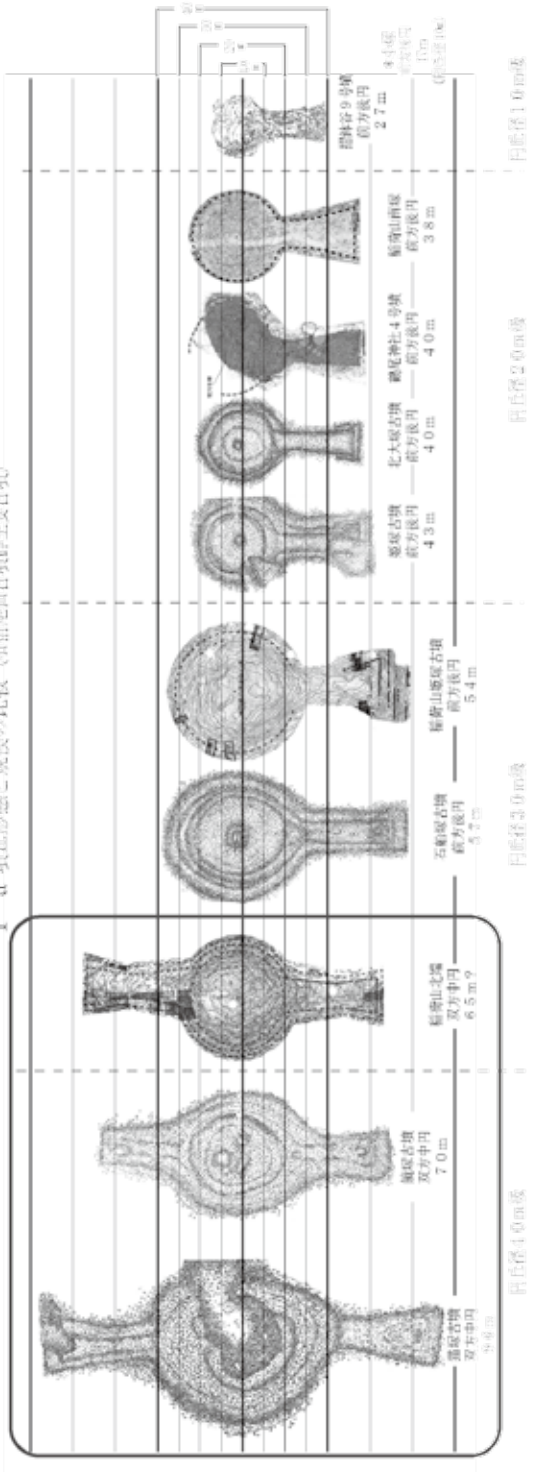
中期には古市古墳群／百舌鳥古墳群で象徴される墳墓の序列体系に列島の諸地域が服した。弥生時代後期とこのような古墳時代中期の間に、独特の地域間關係が模索された一時期を設定したいと思う。そうして、最初の列島規模の政治秩序(中央-地方の關係)が形作られるまでの試行錯誤のプロセスをあらためて正当に評価し直したい。

石清尾山古墳群の調査成果はこうした発想に重要なヒントを与えたことが重要だ。

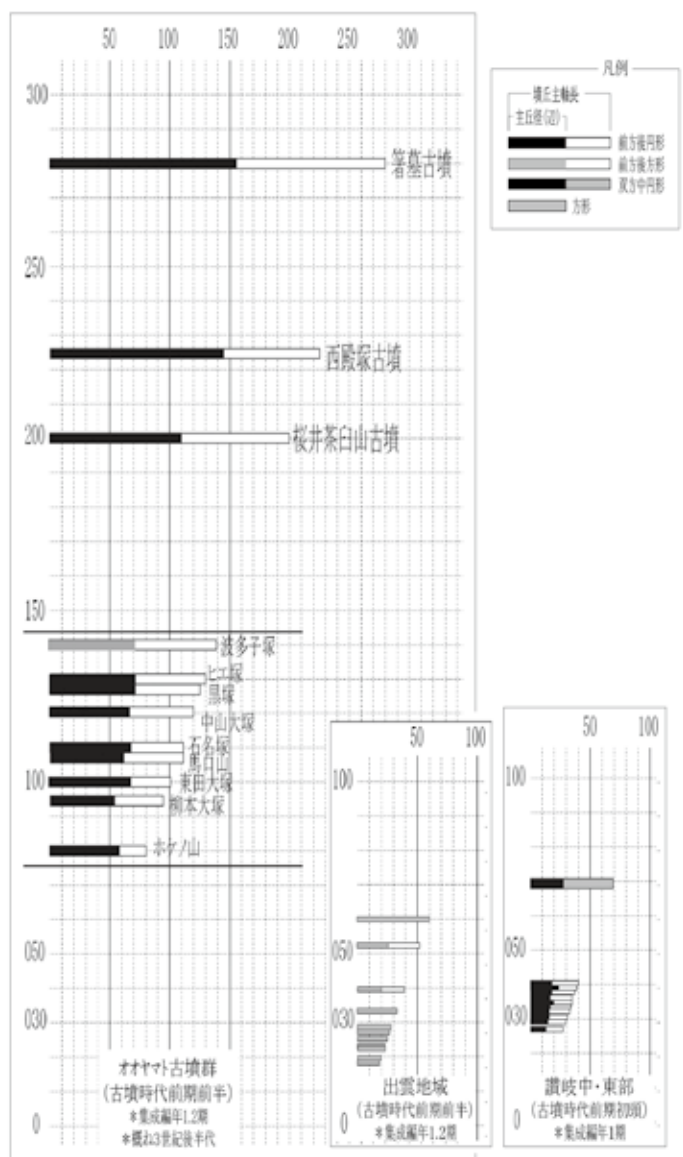




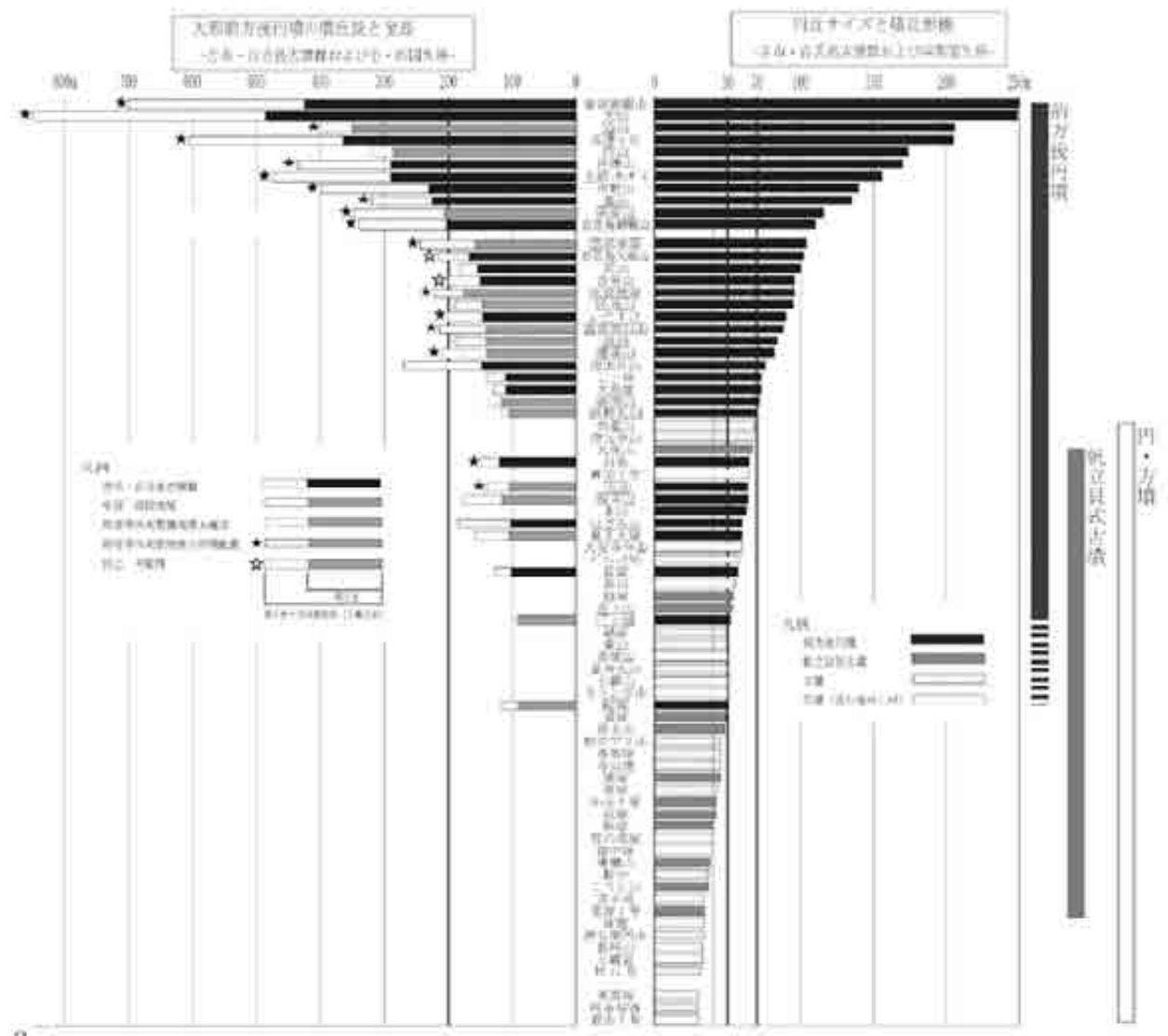
1-a 墳形形態と規模の比較 (石清尾山古墳群主要古墳)



1-b 前方後円墳成立時期(及び直続時期)における墳丘墓序列体系の非画一的様相

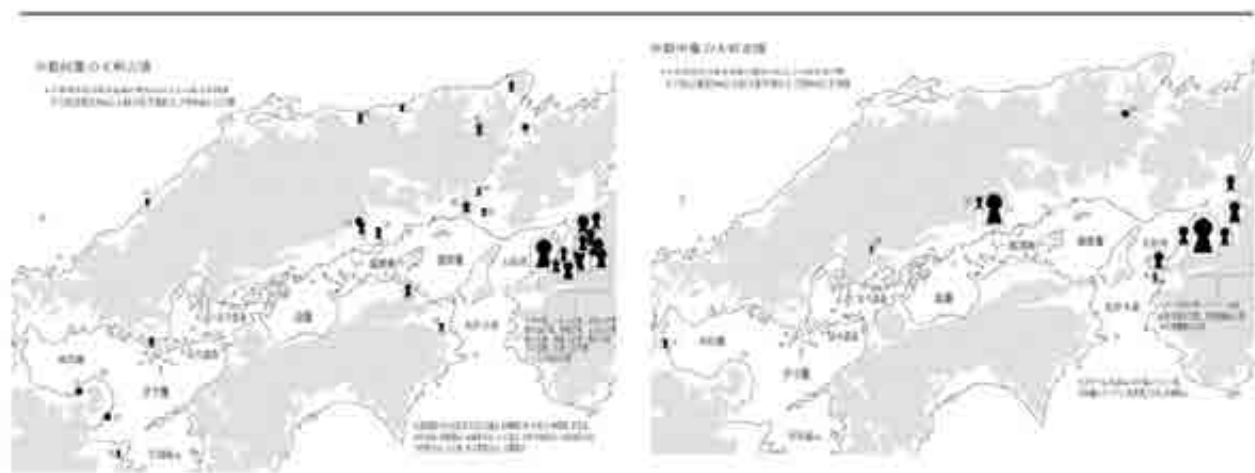


- *1 オヤマト古墳群の構成 前方後円墳もしくは前方後方墳 墳丘規模の明確な二層構造 (200mOVERクラス/80~150mクラス)
- *2 小形前方後円(方墳)および円墳・方墳の不在
- *3 同時期の出雲地域 方墳を主とした序列体系構築 小形前方後方墳とこれを凌駕する方墳の存在に注意
- *4 同時期の讃岐中・東部 双方中円形墳と概ね40m未満の極小サイズ前方後円墳の二層構造



2-a 中期古墳 墳丘サイズと墳形 序列体系

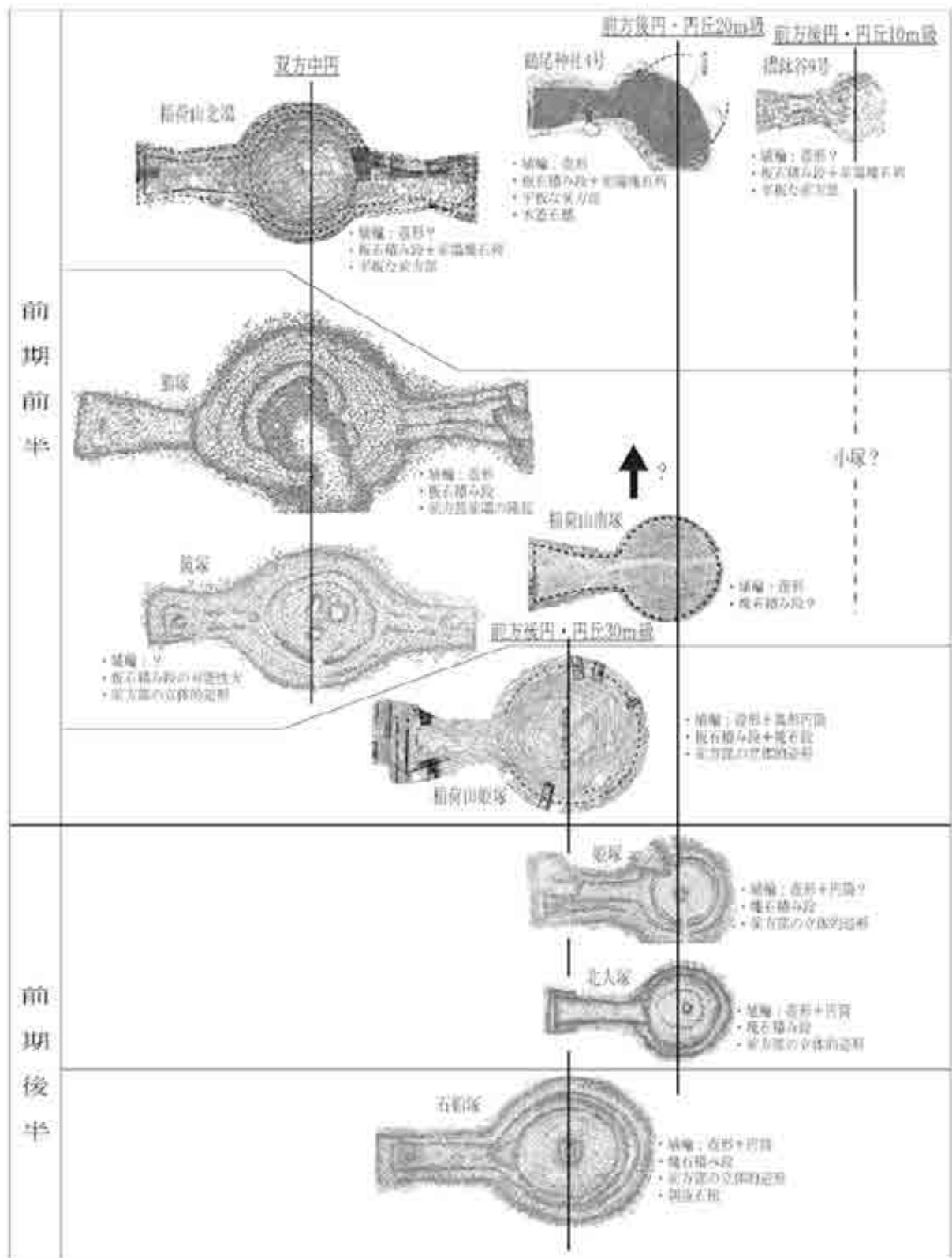
*古市古墳群・石舌島古墳群は前方後円墳・帆立貝式古墳・円・方墳を表示
 他は前方後円墳のみ表示している。
 *古墳名枠囲いは中四国九州地域の前方後円墳



2-b 中期大型古墳の分布

資料 02 中期古墳の分析





資料 03 墳丘形態・サイズ変遷

讚岐地域主要古墳編年表

古墳時代	丸亀平野				高松平野				東部海岸・後背平野					
	南部		北部		西部		東部		西部		東部		南部	
	弘田川中流域	大久川下流域	大久川中流域	大久川上流域	本掛川	石濱尾山	香次川	春日川	尾島・新川	鴨部川	津田川・津田河	徳川	徳川	徳川
古墳時代前期	古相前半段階	新相後半段階	古相後半段階	新相後半段階	古相前半段階	新相前半段階	古相前半段階	新相前半段階	古相前半段階	新相前半段階	古相前半段階	新相前半段階	古相前半段階	新相前半段階
	古墳時代中期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期	古墳時代後期
飛鳥時代前半	初頭	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉
	初頭	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉

土器 埴輪・瓦器など未確定
 石標
 石標

2018.09.15現在(2018.09.15)



資料 04 讚岐地域古墳編年表 180915 案



禰
宜
田



広
瀬



高
松
市



大
久
保
⑦



森
下



讃岐地域、前期前半期の主要古墳分布
*丸囲みは積石墳

資料 05 讃岐前期前半古墳分布図 3



讚岐地域、前期後半期の主要古墳分布 *丸囲みは積石墳



資料 06 讚岐前期後半古墳分布図 3



禰
宜
田



広
瀬



高
松
市



大
久
保
⑨



森
下



大久保資料07

讃岐地域、中期前半期の主要古墳分布 * 富田茶臼山古墳のみ中期前葉、その他は一段階通り中期初頭。

資料 07 讃岐中期前半古墳分布図 3

石清尾山古墳群の墳丘外表構造（積石段）その1

～板石積み段～



鶴尾神社4号墳（前方部側面）報告書から



稲荷山北端古墳（円丘部）大久保撮影



稲荷山姫塚古墳（後円部）大久保撮影



笠塚古墳（円丘部）大久保撮影



碓氷谷9号墳（後円部）大久保撮影



稲塚古墳（円丘部跡に散乱する板石）大久保撮影



〔参考〕船岡山古墳（くびれ部）大久保撮影

資料 08 石清尾山墳丘外表構造（板石積み段）



石清尾山古墳群の墳丘外表構造（積石段） その2 ～塊石積み段～



姫塚古墳（後円部）大久保撮影



北大塚古墳（前方部）大久保撮影



石船塚古墳（後円部）大久保撮影



槇荷山南塚古墳（円丘部）大久保撮影

発 表

稲荷山地区の調査成果と石清尾山古墳群の評価

大手前大学 教授 森下 章司

屋島山頂より撮影

稲荷山地区の調査成果と石清尾山古墳群の評価

大手前大学 森下 章司

高松市教育委員会によって実施された今回の稲荷山地区の調査は、戦前の京都大学の調査（『讃岐高松石清尾山石塚の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第12冊 1933年 以下『京大報告』と略称）以来の、石清尾山古墳群に対する本格的な発掘調査であった。その成果は多岐にわたり、『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』（以下『稲荷山地区調査報告』と略称）という立派な報告書が発刊され、詳細にまとめられている。本日の発表では、この調査研究成果にもとづきつつ、石清尾山古墳群の性格に関して発表者が重要と考える知見と課題について報告する。

「積石塚」は各地に所在し、その時期や系統は多様である。その中で石清尾山の積石塚は前期に属し、規模や墳形からみて首長クラスの墳墓が積石塚で構成されたことが特徴である。そこから「土ではなく、なぜ石で築造されたのか」という問いかけがなされるのも当然である。すぐに答えが出るわけではないが、今回の調査結果は、石清尾山古墳群の性格を考える様々な手がかりを提供してくれる。

1 稲荷山地区古墳群の調査成果と積石塚の構造

稲荷山地区の発掘調査のもっとも大きな成果は、積石塚の外観や構造に関する知見が得られたことと考える。積石の外表面構造に積石段が確認され、その変遷が明らかにされたことは重要である（高上 2018）。

簡単にまとめると（図2）、塊石1石程度の高さの積石段を構成するもの（Ⅰ類）から、部分的に2石を積み上げるもの（Ⅱ類 前面に板石を積んで二重構造とするものもある）、複数段を積んで高く垂直な積石段を構成するもの（Ⅲ類 前面に板石を積んで二重構造とするものもある）に整理された。

これらの類型は石清尾山古墳群内での一連の変遷過程とみられる点が興味深い。①低平なものから始まって高く積み上げるものへと発展したこと、②当初から段を設け外観を整えることに工夫が払われていたこと、③板石積による垂直段の形成は外表装飾を独自に工夫したものであることなど、いずれも石清尾山古墳群の中で発展、改良が加えられていったものであった。こうした構造の変化は、讃岐の他の積石塚と共通することも指摘されている。

石清尾山古墳群の積石塚は、この地での独自に発展したという見方がますます有力となった。その一方、従来からも強調されているように墳形や段の形成など、前方後円墳の

要素を基本とすることも確かである。今回明らかにされた外表施設も、盛土の前方後円墳の段築と関係するものであろう。

こうした外表が積石段を構成することを前提としつつ、今後海外や他地域の積石塚との比較も必要となってくるが、明確に検討できる例は少ない。その中で積石塚が多数築かれたことで有名な高句麗の七星山 871 号墓（一辺 40～48 m の方形階段式の積石塚 2 世紀の高句麗王陵と推定）の調査例を掲げておこう（図 3）。外觀上は石積みの段ということで石清尾山の積石塚と共通するが、表面の大型の石は内側の裏込め状の石によって支えられた「石垣」状のもので、それを重ねることによって墳丘と段を構成することがわかる。板石などを用いた二重構造で外觀を整えた石清尾山の積石塚とは、構造的に大きく異なることが理解できる。

2 石清尾山猫塚古墳の副葬品

石清尾山古墳群では副葬品が確認された古墳が乏しく、古墳群の評価をする上でネックとなってきた。その中で猫塚古墳の出土品は、銅鏡、石釧、筒形銅器、銅剣、武器、土器など各種の品目に及んでおり貴重である。とくに合計 4 面もの漢代の鏡がひとつの古墳から出土した点は、畿内以外の古墳では異例である。

銘帯鏡 一前漢後半期（前 1 世紀）の中国鏡。鮮鋭な鑄上り。

蝙蝠鈕座式内行花文鏡 一後漢中期の中国鏡（2 世紀前半）。

浮彫式獣帯鏡・四獣鏡 一後漢後期の中国鏡（2 世紀後半）。徐州地域の産。

仿製三角縁神獣鏡 一三角縁神獣鏡の系譜を引く鏡。4 世紀。鑄上がり不良。

これらの副葬品は明治 43 年時の盗掘時に出土したものであること、考古学的にみて時間幅があるものを含んでいることから、議論を呼んできた。これまで猫塚古墳の時期決定において主要な手がかりとされており、仿製三角縁神獣鏡や筒形銅器など前期でも時期の降る副葬品の出土から、前期後半とみられてきたのである。

『稲荷山地区調査報告』で発表者は、銅鏡や銅製品の型式、錆の状態などから、次の 3 つのグループに分けられることを述べた。それらは猫塚古墳にあった複数の埋葬施設から出土した可能性を考えた。

A 銘帯鏡

B 蝙蝠鈕座式内行花文鏡・浮彫式獣帯鏡・四獣鏡・銅鏃(?)

C 仿製三角縁神獣鏡・筒形銅器・銅剣

『稲荷山地区調査報告』で大久保徹也氏は、猫塚古墳の盗掘事件に関わる興味深い資料を紹介している。それは『香川新報』明治 43 年 5 月 26 日付けの記事で、盗掘の最中に記者が状況を紹介したものである。「已に掘り得た分は高松警察署へ持行きたり」とある。注目したいのは、記者が高松警察を訪れて見た副葬品は「素焼の甕」1 個、「二個の鏡は青銅様の質にて直径四寸位なるか滑らかなる鏡面今尚能く物を映すことを得」、「青色の玉



図1 稲荷山姫塚古墳の外表

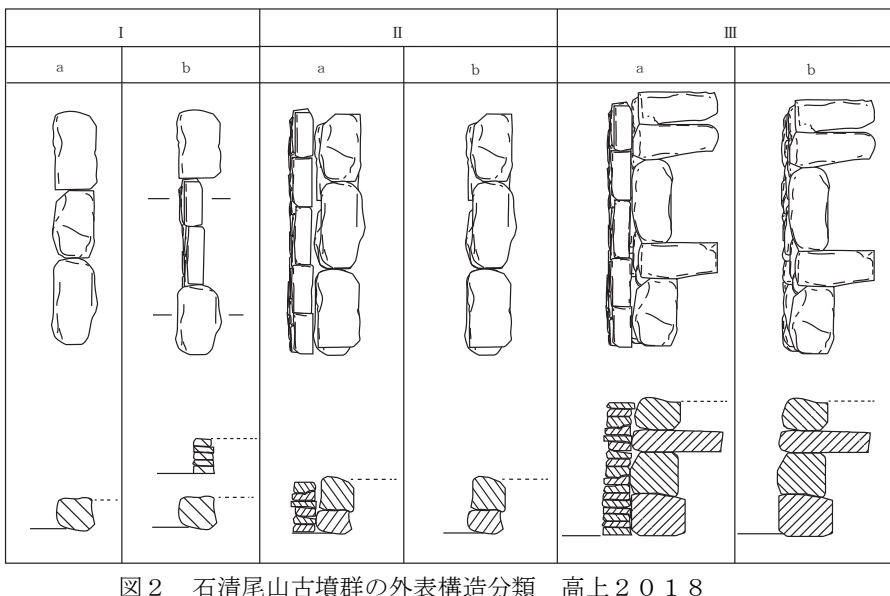


図2 石清尾山古墳群の外表面構造分類 高上2018



図二七 七星山871号墓の積石



図二八 七星山871号墓北側1、2透視断面部詳細図

図3 高句麗・七星山 871号墓の積石 吉林省文考古研ほか2004

環一個」、「箭の根十数個、其他刀、鎗の穂先、名も付け兼ねる金器、破片多数」とある。

二面の鏡は、大きさや錆の少ない状態であることから、上のBの浮彫式獸帯鏡と四獸鏡ないしは蝙蝠鈕座式内行花文鏡であったことがわかる。そのほかに石釧もあった。「箭の根」は銅鏃のことを指すのであろう。Bを中心とする品目が、この時点で警察に提出されていたことがわかる。記事では続いて、「尚発掘場所にて聞く処によれば昨日までに得たる重なるもの鏡五個、鐸三個、矢の鏃十九個、鎗尖九個、壺一個、刀二本」とある。間接的な材料ではあるが、猫塚古墳の複数の埋葬施設から分かれて出土した品物が、警察への提出など、その後の扱いにある程度反映した可能性を考える。いずれにしてもCの副葬品をもって猫塚古墳の年代を決定するのはむずかしい。積石塚の構造などから「前期前半新相」とみる見解を支持する（大久保 2013a 稲荷山地区調査報告）。

猫塚古墳の副葬鏡については他にも問題となる点がある。Aの銘帯鏡は、古墳出土の前漢鏡としては異例の鮮鋭さを保っていること（鶴尾神社4号墳鏡に代表されるように通常の漢鏡は表面が模糊となっている）は不思議である。その副葬状況や内容は、まだ不明な点が多い。

3 石清尾山古墳群の構成と特色

稲荷山地区の調査によって、石清尾山古墳群全体の変遷も明らかとなってきた。『稲荷山地区調査報告』に基づいて整理する（図5）。

前期前半古相では双方中円墳1基（稲荷山北端）、前方後円墳2基（鶴尾神社4号、石清尾山（摺鉢谷）9号）があり、峰山と稲荷山の両地域に分布する。「期間に対して築造数が多く、単一系譜の連続的築造とは考え難いことから、複数系譜による古墳築造」とであると想定された。可視領域が分かれることも傍証とする。広瀬和雄氏は石清尾山古墳群を「複数系譜型古墳群」ととらえ、「在地での首長同士の結びつきの可視的モニュメント」と評価する（広瀬 2018）。

前半新相は稲荷山姫塚、稲荷山南塚、鏡塚、猫塚など数や規模に関してピークを迎え、双方中円墳である猫塚古墳を頂点とし、地域の独自性が維持されていることも特徴である。

ところが前期後半になると「急激な築造数の減少と分布域の縮小減少」がみられ、前期後半古相では前方後円墳2基（姫塚、北大塚）、後半新相では1基（石船塚）となる。そして石船塚古墳をもって石清尾山古墳群の築造は終焉をむかえる。こうした変化と対応して、津田古墳群など他地域が讃岐では中心的な位置を示すようになるものと想定される。

こうした中心となる古墳と共に、小規模な積石塚の動向も合わせて検討の要がある。戦前の『京大報告』では、多くの積石塚の位置がプロットされているが、現在では確認できないものもある。また、その段階で楕円形とされた稲荷山北端古墳は、今回の調査では双方中円墳であることが確認された。低平な積石塚であるため、発掘調査を行わないと、墳形や規模が確認できないものも含まれる。『京大報告』前に失われた古墳が存在する可能





1 銘帯鏡 前漢 径 16.7cm



2 蝙蝠鈕座式内行花文鏡 後漢 径 14.0cm



3 浮彫式獣帯鏡 後漢 径 12.8cm



4 四獣鏡 後漢 径 14.0cm



5 仿製三角縁神獣鏡 径 22.2cm



6 石釧・筒形銅器・銅劍・銅鏃

図4 猫塚古墳の副葬品

石清尾山古墳群の編年

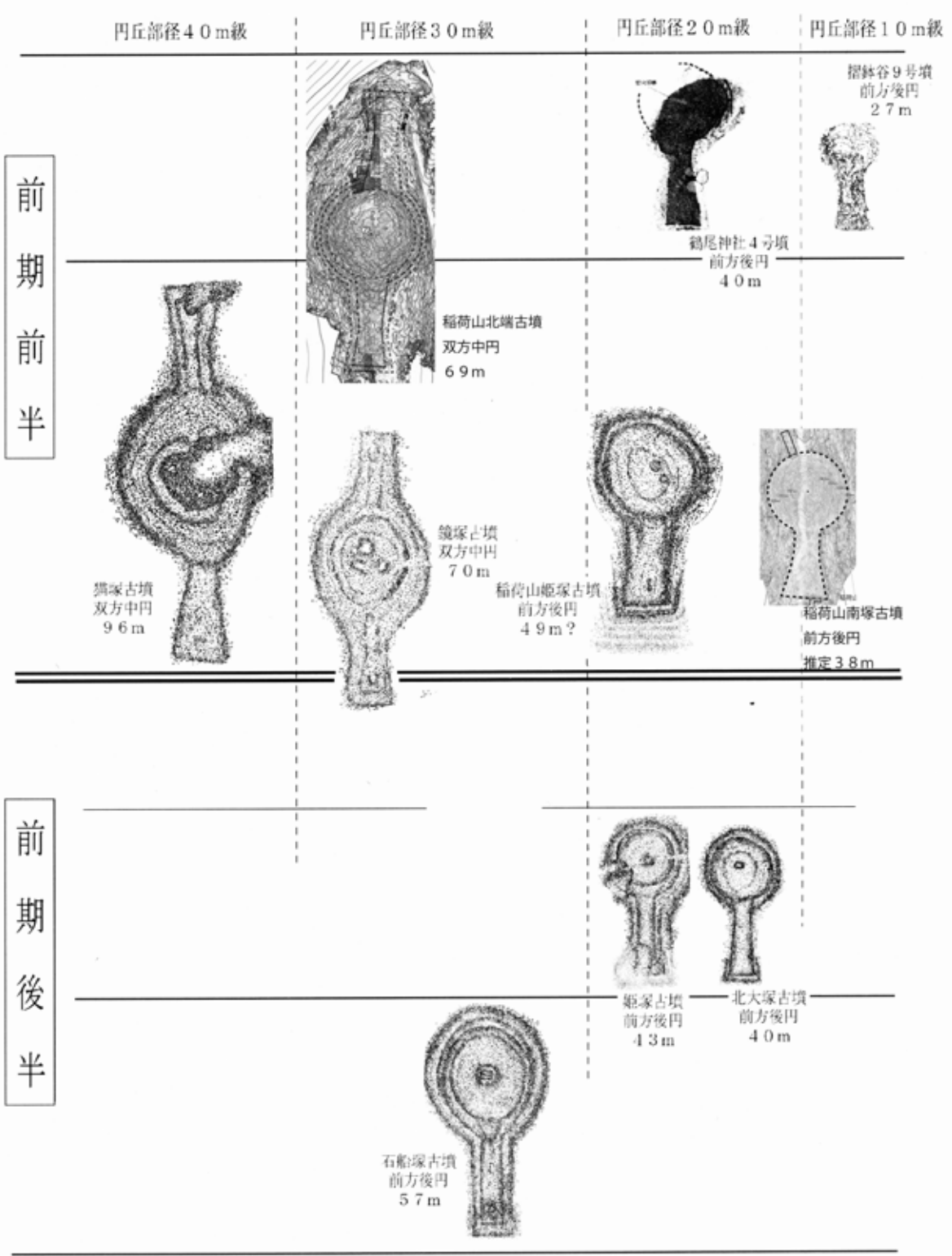


図5 石清尾山古墳群の変遷 (大久保 2013a を改変)

性や、今後に新たに発見される可能性なども考慮する必要がある。石清尾山古墳群は、今残る姿以上に「大古墳群」であったことも考えてみたい。

引用参考文献

梅原末治 1933 『讃岐高松石清尾山石塚の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第12冊 京都帝国大学文学部

大久保徹也 2013 a 「高松平野の前期古墳について」『シンポジウム 高松平野の前期古墳を考える』高松市教育委員会・徳島文理大学文学部

大久保徹也 2013b 「津田湾・津田川流域の前半期諸古墳の築造動態とその評価」『津田古墳群調査報告書』第2分冊考察篇 さぬき市教育委員会

吉林省文物考古研究所・集安市博物館 2004 『集安高句麗王陵— 1990～2003年集安高句麗王陵調査報告』文物出版社

高上 拓 2018 「石清尾山古墳群墳丘外表構造」『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』、高松市埋蔵文化財調査報告第190集 高松市教育委員会

丹羽佑一 2018 「香川の前期前方後円墳の展開と石清尾山古墳群—石清尾山古墳群形成主体は前期讃岐の最高政治権力か—」『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』、高松市埋蔵文化財調査報告第190集 高松市教育委員会

土生田純之（編）2017 『積石塚大全』 雄山閣

広瀬和雄 2018 「石清尾山古墳群をめぐる二、三の論点」『石清尾山古墳群（稲荷山地区）調査報告書』、高松市埋蔵文化財調査報告第190集 高松市教育委員会

松田朝由（編）2013 『津田古墳群調査報告書』さぬき市埋蔵文化財調査報告第11集 さぬき市教育委員会
渡部明夫・藤井雄三（編）1983 『鶴尾神社4号墳調査報告書—高松市石清尾山所在の積石塚前方後円墳の調査—』 高松市歴史民俗協会

い わ せ お や ま こ ふ ん ぐ ん

石清尾山古墳群 国史跡追加
指定記念 **シンポジウム**

— 古墳群の未来へ提言する — 資料集

平成 30(2018) 年 10 月 20 日 発行

編集・発行：高松市 創造都市推進局

文化・観光・スポーツ部 文化財課

(高松市埋蔵文化財センター)

〒 760-8571

高松市番町一丁目 5 番 1 号

TEL 087-823-2714 FAX 087-823-2715

印刷：株式会社 美巧社